

2025 年 1 月

MC-Media Pad お客様 各位

JNC 株式会社
ライフケミカル事業部

MC-Media Pad 取扱説明書、培養性能試験、無菌性試験

変更のお知らせ

拝啓

貴社ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
さて、表題の件につきまして、以下の通り、ご案内申し上げます。

敬具

記

1. MC-Media Pad サルモネラ用 取扱説明書変更：2025 年 1 月より

MC-Media Pad サルモネラ用の取扱説明書を一部変更することいたしました。これまでは、定量試験の方法のみの記載でしたが、表 1 の通り、定性試験の方法を追記いたします。なお、取扱説明書は製品に同梱しておりませんので、弊社ホームページ(下記)より、ダウンロードをお願いいたします。

<https://www.jnc-corp.co.jp/MC-MP/document/>

2. 培養性能試験の使用菌株変更：2025 年 3 月 1 日製造分より

MC-Media Pad の一部製品につきまして、表 2 のとおり、培養性能試験の使用菌株について ISO11133 を参考に変更することいたしました。また、一部の菌株名が変更となりましたので、合わせてお知らせいたします。

3. 無菌性試験の方法(添加液)変更：2025 年 3 月 1 日製造分より

MC-Media Pad 全製品の無菌性試験に使用している添加液を下記の通り変更いたします。なお、培養条件(25℃、1 週間)は、変更ございません。

変更前	変更後
リン酸緩衝生理食塩水	リン酸緩衝液

上記の変更により、製品性能等には、何ら影響ございません。また、試験成績書を 2、3 変更の関連箇所に加えて、一部の箇所を修正いたしました。

本ご案内につきまして、ご不明な点がございましたら、以下までお問い合わせください。
引き続き、MC-Media Pad をご愛顧いただきますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

以上

【お問い合わせ先】

JNC 株式会社 ライフケミカル事業部

TEL:03-3243-6225 FAX:03-3243-6219 E-mail:mcmp@jnc-corp.co.jp

表 1 MC-Media Pad サルモネラ用の取扱説明書変更

項目	変更前	変更後
試験に必要な器具	・インキュベーター (35 ± 1℃) ・ストマッカーまたはブレンダー ・サンプリングバッグ (食品残渣を排除できるフィルター付のものを推奨) ・ピペット類 ・Butterfield's Phosphate Buffer ・リン酸緩衝生理食塩水または同等の希釈液 ・BPW などの増菌培地、RV ブイヨンまたは TT ブイヨンなどの選択増菌培地	・インキュベーター ・ストマッカーまたはブレンダー ・サンプリングバッグ (食品残渣を排除できるフィルター付のものを推奨) ・ピペット類 ・リン酸緩衝生理食塩水または同等の希釈液 ・(定性試験の場合) 緩衝ペプトン水などの増菌培地、ラパポート・バシリアデイス培地やテトラチオネート培地などの選択増菌培地
試料の調製	・固形試料の場合 試料を 9 倍量の Butterfield's Phosphate Buffer (またはリン酸緩衝生理食塩水、生理食塩水など) とともにホモジナイズします。必要に応じて、適宜 10 倍段階希釈を行います。 ・水、液体試料、ふき取りサンプルの場合 直接試料を滴下します。必要に応じて、pH を中性 (pH7.0 ± 0.2) に調整します。	<u>定量試験</u> ・固形試料の場合 試料を 9 倍量の希釈液とともにホモジナイズします。必要に応じて、適宜 10 倍段階希釈を行います。 ・水、液体試料、ふき取りサンプルの場合 直接または適宜 10 倍段階希釈した試料を使用します。必要に応じて、pH を中性 (pH7.0 ± 0.2) に調整します。 <u>定性試験</u> 試料の 9 倍量の増菌培地とともにホモジナイズし増菌培養します。試料中の大腸菌群数が 10⁵cfu/g 以上であることが想定される場合は、選択増菌培地に増菌培養液を添加し、選択増菌培養します。
使用手順	・一般的な使用方法 1. アルミ袋を開封し、MC-Media Pad を取り出します。必要に応じて、カバーフィルム上に検体情報等を書き込むことができます。 2. カバーフィルムを開け、1mL の試料溶液を培養シート部に滴下します。 3. カバーフィルムを閉じ、周囲をしっかりと押さえ、接着シートと密着させます。 (このとき、カバーフィルムを対角線状に開けると、閉めやすくなります) 4. 35 ± 1℃で 24 ± 2 時間培養します。 ・増菌培地または選択増菌培地からの分離培養法 使用 30 分前に滅菌希釈液を滴下して培地を再構成させたのち、白金耳を用いて画線します。	1. アルミ袋を開封し、MC-Media Pad を取り出します。必要に応じて、カバーフィルム上に検体情報等を書き込むことができます。 2. (定性試験のみ) 使用 30 分以上前に MC-Media Pad のカバーフィルムを開け、希釈液を滴下します。カバーフィルムを閉じ、培地を静置します 3. (定量試験の場合) カバーフィルムを開け、1mL の試料溶液を培養シート部に滴下します。 (定性試験の場合) カバーフィルムを開け、増菌培養液または選択増菌培養液を、白金耳を用いて培地シート部に画線します。 4. カバーフィルムを閉じ、周囲をしっかりと押さえ、接着シートと密着させます。 5. 35 ± 1℃で 24 ± 2 時間培養します。

表 2 培養性能試験の使用菌株変更および名称変更(*印)

製品名	変更前	変更後
ACplus (R-AC)	<i>Bacillus subtilis</i> NBRC 3134 <i>Escherichia coli</i> NBRC 3972 <i>Pseudomonas aeruginosa</i> NBRC 12689 <i>Staphylococcus aureus</i> NBRC 100910 <i>Candida albicans</i> NBRC 1594	<i>Bacillus spizizenii</i> NBRC 3134(*) <i>Escherichia coli</i> NBRC 3972 <i>Pseudomonas aeruginosa</i> JCM 6119 <i>Staphylococcus aureus</i> NBRC 13276
CC	<i>Citrobacter freundii</i> NBRC 12681 <i>Enterobacter aerogenes</i> NBRC 13534 <i>Escherichia coli</i> NBRC 102203 <i>Klebsiella oxytoca</i> JCM 1665 <i>Pseudomonas aeruginosa</i> NBRC 12689 <i>Bacillus subtilis</i> NBRC 3134 <i>Staphylococcus aureus</i> NBRC 100910	<i>Citrobacter freundii</i> ATCC 43864 <i>Klebsiella aerogenes</i> NBRC 13534(*) <i>Escherichia coli</i> NBRC 3972 <i>Pseudomonas aeruginosa</i> JCM 6119 <i>Enterococcus faecalis</i> JCM 8726 <i>Enterococcus faecalis</i> JCM 7783
SA	<i>Staphylococcus aureus</i> NBRC 100910 <i>Staphylococcus aureus</i> NBRC 14462 <i>Bacillus subtilis</i> NBRC 3134 <i>Escherichia coli</i> NBRC 3972 <i>Enterococcus faecalis</i> JCM 8726 <i>Pseudomonas aeruginosa</i> NBRC 12689 <i>Staphylococcus epidermidis</i> NBRC 100911	<i>Staphylococcus aureus</i> NBRC 100910 <i>Staphylococcus aureus</i> NBRC 14462 <i>Bacillus spizizenii</i> NBRC 3134(*) <i>Escherichia coli</i> NBRC 3972 <i>Enterococcus faecalis</i> JCM 8726 <i>Pseudomonas aeruginosa</i> NBRC 12689 <i>Staphylococcus epidermidis</i> NBRC 100911
EC	<i>Citrobacter freundii</i> NBRC 12681 <i>Enterobacter aerogenes</i> NBRC 13534 <i>Escherichia coli</i> NBRC 102203 <i>Klebsiella oxytoca</i> JCM 1665 <i>Pseudomonas aeruginosa</i> NBRC 12689 <i>Bacillus subtilis</i> NBRC 3134 <i>Staphylococcus aureus</i> NBRC 100910	<i>Citrobacter freundii</i> ATCC 43864 <i>Klebsiella aerogenes</i> NBRC 13534(*) <i>Escherichia coli</i> NBRC 15034 <i>Escherichia coli</i> NBRC 102203 <i>Pseudomonas aeruginosa</i> JCM 6119 <i>Enterococcus faecalis</i> JCM 8726 <i>Enterococcus faecalis</i> JCM 7783
YM	<i>Aspergillus brasiliensis</i> NBRC 9455 <i>Candida albicans</i> NBRC 1594 <i>Rhodotorula glutinis</i> NBRC 389 <i>Saccharomyces cerevisiae</i> NBRC 100929 <i>Bacillus subtilis</i> NBRC 3134 <i>Escherichia coli</i> NBRC 3972	<i>Aspergillus brasiliensis</i> NBRC 9455 <i>Mucor racemosus</i> ATCC 42647 <i>Candida albicans</i> NBRC 1594 <i>Saccharomyces cerevisiae</i> NBRC 100929 <i>Bacillus spizizenii</i> NBRC 3134(*) <i>Escherichia coli</i> NBRC 3972

製品名	変更前	変更後
サルモネラ用	<i>Salmonella</i> Enteritidis NBRC 3313 <i>Salmonella</i> Choleraesuis NBRC 105684 <i>Escherichia coli</i> NBRC 102203 <i>Enterobacter aerogenes</i> NBRC 13534 <i>Proteus mirabilis</i> NBRC 13300 <i>Pseudomonas aeruginosa</i> NBRC 12689 <i>Bacillus subtilis</i> NBRC 3134 <i>Staphylococcus aureus</i> NBRC 100910	<i>Salmonella</i> Enteritidis NBRC 3313 <i>Salmonella</i> Typhimurium JCM 1652 <i>Escherichia coli</i> NBRC 3972 <i>Escherichia coli</i> NBRC 15034 <i>Enterococcus faecalis</i> JCM 8726 <i>Enterococcus faecalis</i> JCM 7783
一般生菌用	<i>Bacillus subtilis</i> NBRC 3134 <i>Escherichia coli</i> NBRC 3972 <i>Pseudomonas aeruginosa</i> NBRC 12689 <i>Staphylococcus aureus</i> NBRC 100910 <i>Candida albicans</i> NBRC 1594	<i>Bacillus spizizenii</i> NBRC 3134(*) <i>Escherichia coli</i> NBRC 3972 <i>Pseudomonas aeruginosa</i> NBRC 12689 <i>Staphylococcus aureus</i> NBRC 13276